

車側灯、尾灯・標識灯、ドア関連



●車両イラストはイメージです。

戸閉め検出スイッチ

列車の扉の上にある戸袋内には扉の開閉状態を検知するスイッチが搭載されています。すべての扉の上に取り付けられており、扉の動きに連動してスイッチが動作し、車側灯の制御及び運転席に扉の状態を伝える回路の制御を行っています。

列車はすべての扉が閉まった状態になって初めて動き出すことができる仕組みになっています。この装置が誤動作すると、扉が開いた状態で列車が走行することになり、重大なトラブルにつながります。非常に重要な部品の一つであり、各駅ごとに動作するため、高頻度の使用に耐える高信頼性が要求されます。



DLSシリーズ

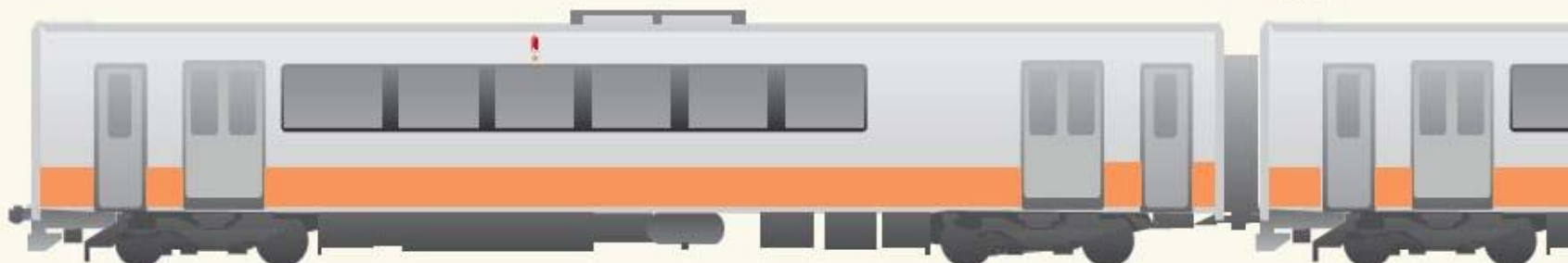
車側灯

各種機器などの動作状態を確認するために、車両の側面に表示させるのが車側灯です。よく使われる車側灯は、ドアを開閉する際に、完全に閉まりきっていないと赤色に点灯し続ける「戸閉め表示灯」です。

戸閉め表示灯以外には、故障表示用や非常通報用として設置される場合もあり、戸閉め表示灯と区別するために、黄色や緑色が使用されています。



JSLシリーズ



信号遅延リレー

押しボタンによる半自動ドアが採用されている車両で、再開閉装置が搭載されていない車両では、車掌スイッチにて一旦ドアを閉めると、車掌スイッチでは再度ドアを開けることができないため、乗客がドアに挟まれる可能性があります。

このリレーを用いることで、信号のタイミングが調整され、車掌スイッチにより再開閉が可能となります。

※特定車種へのカスタム品です。



DDR

尾灯・標識灯

後続の列車などへ存在を示すために使われる表示灯です。ほとんどの鉄道車両では、車両の背面に2つ付けられています。従来は白熱球が主流でしたが、近年ではLED式に置き換わり、細長い形状や丸い形状など車両のデザインにあわせて様々な形状の尾灯が採用されています。



JTLシリーズ